

平成25年度 学習指導改善調査 <考察>

		4年	5年	6年
国語	傾向	<ul style="list-style-type: none"> 資料の紹介文を読んで、話題の中心がしっかりとらえられない。 問題で問われている内容を把握できず、的確に答えることができない。 複数の資料を正しく読み取れず、部分的に拾い読みしている子が見られた。 作文の条件を十分に把握せず書いてしまっている子が見られた。 指定された数の段落で文章を構成できない。 「はじめ—なか—おわり」など段落の役割、文章構成の仕方を理解していない。 原稿用紙の使い方、約束が理解できていない子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果を見て分析する際、「その人数を入れて」書くという点についての記述を見落としていた。 問題点を捉えることができたが、問題点に対しての適切な解決方法を書くことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題作文と資料の中から、必要な部分を読み取ることができない。 資料と自分の体験や知識を結びつけて作文を書くことができない。
	指導改善策	<ul style="list-style-type: none"> 読書量を増やし、読みの基礎となる力を高める。 文章の要点を押さえながら読んだり、文章を解釈したりする力を高める。 相手や目的を意識して、構成を考えて文章を書く経験を積ませる。 字数やキーワードなど指定された条件の中で文章で説明する経験を積ませる。 原稿用紙の使い方について、授業の中で指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書量を増やし、読みの基礎となる力を高める。 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く経験を積ませる。 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する経験を積ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章中の大切な言葉に着目して読んだり、その言葉を文中から探したりできるように指導していく。 資料を読んで、自分の考えをもったり、自分の体験と結びつけて考えたりする学習を設定する。 日頃から、構成を考えて作文を書く経験を積んでいく。
算数	傾向	<ul style="list-style-type: none"> カードを並べて大きな数を作る問題で、6のカードが2枚あるのに、1枚と考えてしまった。 「大きい順に」と指定されているのに、勝手に「小さい順」と解釈した誤りがあった。 問題の説明をよく読まず、題意を理解していない。 大きな数の読みを漢字で書く問題で、ただ漢数字を並べただけの誤答が見られた。 「学校にいる時間→8分」「そうじの時間→15時間」など単位の大きさをよく考えない回答があった。 「比較するとどちらが多い」（ひき算）の意味が解釈できない子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 複合図形の面積を正確に求めることができなかった。 等積変形した図形の求積説明において、正しく立式することができていない。また、式を記入できない。これは、1辺の長さを正しく求めることができていないためと考えられる。 式の計算はしているが、単位を付けて答えを記述していない。 課題を正確に捉えることができていない。 概算の判断が正しくできていない。 「切り上げ」「四捨五入」の理解が不十分。 概数で計算する場面を、実数で計算し、答えを概数で表していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 角の大きさについては、理解できている児童が多かった。 説明の文を正確にとらえることができず、文に対応した式を立てることができない児童が多かった。 単純に平均を求めることはできてても、少し複雑な表になると見方が分からず、求め方を説明したり平均を求めたりすることができなかった。
	指導改善策	<ul style="list-style-type: none"> 「大きな数」「時間と時刻」など数量関係の問題を重視する。 数や言葉を使って、問題の解き方について説明する言語活動を多く取り入れる。 「はじめに」「つぎに」「最後に」など順序を表す言葉を用いて説明できるようにする。 問題で問われていることを的確に把握する方法を具体的に指導する。(キーワードを探す。条件や問いに線を引く。など) 	<ul style="list-style-type: none"> 「図形の面積」を求める学習では、図形に線を引いたり、移動したりする活動を通して、言葉、数、式、図を用いて説明させる学習を重視する。 「概数」の指導を繰り返して行うようにする。 単元における「用語や記号」について確実に理解できるように、課題や発問を工夫するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の基礎基本については、これまでの学習方法を継続していき、学力の定着を図る。 問題の解き方の説明の文例を使って、基本的な説明を練習したり、類似問題で解き方を説明したりする学習を取り入れる。 基本的な問題だけでなく、応用的な問題を授業に取り入れていく。
理科	傾向	<p>1 問題の意味が理解できずに解答できない児童が多かった。</p> <p>(1) 北に合わせることを理解していない。</p> <p>(2) 方位磁針の図を理解できていない。</p> <p>(3) 方位を入れて書けない。また条件を満たして説明できない。</p> <p>(4) 影の長さではなく、影の方向について書いている児童が多かった。</p> <p>2 全体的によくできていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「グラフと沸騰を関係付けて考える問題」「空気の性質を考えての予想」で、二つの理由があるにも関わらず、一方の内容しか記述していない。 温度と状態の違いを関係付ける際、「水蒸気が冷やされて水になった」ということを理解できていない。 季節による温度の変化と、成虫の個体数の変化とを関連付けて記述することができない。 資料を適切に選択することができない児童がいたため、記述に誤りがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文と資料の図や表と結びつけて考えず、自分の考えだけで記述している児童が多く見られた。また、数値を書くことはできて、その数値の意味の捉え方があいまいである。 実験の結果は理解できてその結果からどんな結論が出せるのかを考えることができなかった。
	指導改善策	<ul style="list-style-type: none"> 方位磁針を実際を使って学習する場面を多く設定する。 説明の書き方についても日頃の学習で指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明を複数の観点から箇条書きで簡潔にまとめる練習を日頃の学習で行う。 結露等の現象を見せ、あらゆるところに水蒸気が存在することに気づかせる。また、空気中の水蒸気の量は湿度計でも計ることができることも教える。 季節の変化と昆虫の生活史が個体数の変化に結びついていることを確認する。 資料を活用する活動を日頃の学習の中に取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で資料を読み取り考察する時間を取り入れていく。 実験の結果をじっくり考察し、文章化する時間を日頃の授業の中で多く取り入れる。